

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4271300297 | | |
| 法人名 | 株式会社 ふるさと | | |
| 事業所名 | グループホームふるさとの丘・山鳩の里 (ふるさとの丘) | | |
| 所在地 | 長崎県諫早市中通町993番地7 | | |
| 自己評価作成日 | 令和元年11月01日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年2月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/42/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 | | |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内 | | |
| 訪問調査日 | 令和元年12月11日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、当社の理念である「利用者の意思を尊重し、望ましい生活を送れるように、チーム一丸となって支援します」、「目配り、気配り、心配りに努め、利用者の心に寄り添います」「利用者には誇りと責任を持ち、真心で接します」のもと、利用者がその望む生活を送れるように、心に寄り添いながら、多角的な視点とクリエイティブなマインドを持って自立支援に努めている。生活のメリハリと楽しみのために、毎月イベントやレクリエーションを行っている。また、気分転換や五感刺激、社会との関わり合いが薄れることのないように、身体的な要因に関係なく、積極的に外出支援を行い喜ばれている。施設代表の『働く職員が、笑顔で楽しく働けない職場では、利用者様に対しての安心・安楽なサービスを提供することができない』という考えのもと、事業所が笑顔であふれるように、職場環境・職員処遇の改善を積極的に進めるとともに、社内教育や外部研修会へ参加、資格取得の支援など、職員の育成にも力を注いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表と職員は、理念を支援の根幹と捉え、これまでの事業所理念を見直し新たにしている。代表は認知症に対する固定観念を取り外し、利用者への柔軟なアプローチが必要であると感じている。事業所では外出、ドライブなど頻繁に出掛け気分転換を図る他、調理レクリエーションや外食メニューの選択、土用鰻、秋さんま、お屠蘇など食を楽しむ普通の生活を過ごせるよう支援している。介護計画の緻密さは特筆すべきであり、本人が今できることの“幸せプラン”実現に努めると共に、介護は看取りで完結との思いで積極的に取り組んでいる。育児休業・誕生日休暇の処遇改善や資格取得奨励を設け、職員は看護師資格やメンタルケア資格など取得に向け、更なる高みを目指している。また“ありがとうカード”で互いに感謝を表している。利用者が穏やかに過ごす姿から理念浸透が垣間見える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念の見直しを行い、職員全員で新たな理念を作り上げた。毎月の全体ミーティングで確認や共有を行い、理念を日々のケアや支援の羅針盤として、スタッフそれぞれが利用者が望む生活について考え、実践をしている。 | 職員は“目配り、気配り、心配り”を念頭に置き、利用者の言葉を傾聴し、また、“介護者としての誇り”を持って利用者、家族に接している。利用者のQOL維持向上を目標とし、利用者に幸せを感じて貰えるよう、理念を常に考えの根底に据えて、日々職員共有し、支援の実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入会し、町内の一員として清掃や祭りなどの行事に積極的に参加して、町内の方と交流している。「ふるさとさん」と呼ばれ頼りにされている。昨年は、有喜の夏祭りで披露された『猿浮流』にも参加し、ご厚意でホームにて庭先回りに来ていただき交流した。 | 町内会に加入しており、情報は自治会長から伝わっている。稲作、田植え時期には、利用者職員が参加したり、祭り“猿浮流”に多数の職員が練習段階から参加している。清掃活動や外出先での近隣との挨拶時、愛称で呼ばれるほど、地域密着度が窺え、また頼りにされている様子がわかる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や「語らんば」等の地域の集いの場や、施設見学の方などから質問や相談を受けアドバイスをしている。また、職員は認知症キャラバンメイトとして活動し、児童や市民に認知症理解や支援方法を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業所の考えや実際の活動、評価結果等を写真を用いてわかりやすく説明するとともに、話しやすい雰囲気づくりに努め、意見をもらっている。また、今年度より、職員に1名参加してもらい、利用者やユニットのこと、介護への思いや考えを発表してもらい事業所の様子を伝えている。 | 現況・研修・身体拘束委員会報告、スライドでの日々の様子など多彩なテーマを企画し、活発な意見交換を行っている。今回、職員発表の場を設け、職員の意識向上と事業所への理解を深めている。議事録は詳細且つ透明性が窺える。委員からの情報などを運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当課とは、運営推進会議への参加、各手続きや調査、公的扶助受給者への支援を通して、連携している。また、市担当課主催の研修会には必ず参加してしている。 | 市担当課とは、書類上の手続きやわからないことの相談など行っている。利用者状況確認のため、市担当課の訪問があり、連携を図っている。職員は、市主催の“多職種協働研修”に参加し、認知症に関わる専門職の役割や協働しやすい関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員を中心に年2回の社内研修を行うとともに、センサー使用についても毎月のユニットカンファレンスで見直しを行っている。 | 2ヶ月ごとに身体拘束適正化のための委員会を開催し、運営推進会議にて報告している。年2回の研修では指針をもとに、具体例を挙げ適切なケアなのかを検討している。更に、日々の支援にて言葉を含めて気になる支援には代表のチェックが入り、全職員で拘束をしない支援に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 社内、社外研修での学びとともに、日々の業務の中で互い注意喚起するなど、意識付けながら防止に努めている。 | | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(ふるさとの丘)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修への参加や介護関連の資格取得のための学習にて学んでいる。利用者の状況に応じ社会福祉協議会や地域包括支援センターに相談をしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は、契約書や重要事項説明書を詳しく説明し、質問に答えながら十分納得いただいた上で契約してしてもらっている。また、改定の際は事前に文章にて通知した上で、疑問質問を受付け、納得いただいた証として同意書ももらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置はもとより、利用者とは、日々のコミュニケーションの中で意見や要望を伺っている。ご家族とは、面会時や電話報告を通して信頼関係の構築および意見を言える雰囲気作りにも努めて意見や要望を伺っている。その上で希望に添えるように努めている。 | 契約時に本人・家族に苦情窓口を説明しており、玄関に意見箱を設置している。家族の訪問時には、職員が利用者の現状や外出したことなどを報告し、会話している。海外を含め遠方の家族には電話を掛け、ホーム新聞や本人だけの新聞を送ったり、ホームページを開設しブログで日々の様子を伝えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の全体ミーティング、日々の業務中、年2回の職業能力評価の個人面談等幅広く、意見や提案をしてもらう機会を設け、運営に反映している。また、食事会を設けたりと、話しやすい雰囲気作りにも努力している。 | 代表は日々の支援に携わっており、職員はいつでも話せる環境にある。代表は、育児休暇や誕生日休暇を導入し、職員が働きやすい職場環境に配慮していることが確認できる。また、年3回傾聴講座を開き、支援や職員間のコミュニケーションに役立てている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は、職員とともに日々介護に携わり、一緒に悩み考えながら認知症ケアに取り組み、スタッフ個々の把握に努めるとともに、給与水準の見直しや業務改善に取り組んでいる。また、やりがいや向上心につながるよう、職業能力評価制度、キャリアドッグを実施している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月の社内研修の実施および社外研修の案内と受講の機会の支援はもとより、管理者は日々の業務や職業能力評価制度にて職員個々の力を把握し、必要に応じてOJTを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 『諫早市グループホーム連絡協議会の研修』、『みんなDE踊ると隊』、『語らんば』、『その他社外研修』を通じて意見交換をしたり、親睦を深めたりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面談にて、本人や家族、関係者から情報収集して、困りごと不安なことの把握に努めている。入居後は、良好な関係づくりのため、本人に負担のかからない範囲で積極的に関わり、話を聞くようにしてケース記録に残しスタッフで共有している。必要に応じてミニカンファレンスを開き対応を検討している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面談にて、家族、関係者から情報収集して、これまでの苦労や困りごと不安なことの把握に努めている。入居後は、家族の心配への配慮と今後の良好な関係づくりのため、入居1週間は、その日の状況を家族に電話で伝えるとともに要望を伺っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の相談で、本人や家族、関係者から情報収集し、支援の優先順位を見極め、必要であれば他のサービスを紹介することもある。また、希望に応じて体験入居をしてもらっている。さらに、入居後も身体や精神の状態を詳しく観察して柔軟な対応をするが、早急な対応が必要と思われる場合は、他のサービスへつなげている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の思いやストレングスを意識しながら利用者の望む暮らしを考え支援している。また、職員は、自分が利用者の一歩の理解者であるとの認識を持ち、利用者から助言やいたわり、励ましをもらいながら喜怒哀楽を共有し、関係性を構築している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | スタッフと家族の良好な関係構築に努めている。家族の面会の際には、日々の様子を伝えて情報共有している。また、利用者との関係性に配慮しながら、手紙・暑中見舞・年賀状のやりとりや、家族と外出・食事などを提案し協力を得ている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 理容室の利用、墓参り、地域の行事や祭りへの参加、なじみの場所への外出など一人ひとりの生活習慣を尊重し積極的に支援している。 | 以前から通っている理美容室には職員が同行している。本人出身地の祭りに出掛け、知り合いと話したり、利用者との会話から以前住んでいた場所を特定し、墓を探して墓参りするなど、個別の支援が多くみられる。携帯電話を所持し、家族との会話を楽しむ利用者もいるなど、馴染みの場所、人との関係継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員は利用者同士の関係性について情報共有し、利用者同士の関係性がうまくいくように間に入って状況に応じた支援をしている。役割活動やレクリエーションを通して互いに支え合う関係性作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後、病院への見舞いや施設への面会などを行っている。他の事業所へ移った際にも、ホームでの暮らしぶりや支援内容、注意点を情報提供するとともに、提供後の問い合わせにも対応し連携に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々職員は、利用者の言動、表情から本人の思いの推測や確認を行い、その真意をはかることに努めている。把握が困難な場合は、家族や関係者に相談しながら、本人の視点に立って検討している。 | 傾聴講座で学んだことを役立てた利用者との会話や普段の様子を記録している。表出困難な場合は生活歴を基に利用者の視点で検討している。以前の暮らしを家族に尋ねることもある。本人の昔の写真を基に会話を導き出す他、レクリエーションや広告を見ている時の利用者同士の会話も貴重な場面であると捉えている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴やライフスタイルの把握は、利用者への理解、その人あった支援の実践、BPSDの対応などに欠かせないことであるため、本人や家族に協力を得て継続的に行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の関わりや観察から、利用者それぞれの生活リズムの把握に努め、スタッフで情報共有して、柔軟に対応している。またその人の「ストレングス」に着目し、支援課題として取り組んでいる。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者との日々の関わりや家族とのコミュニケーションを通して思いや希望を聞き、本人の望む暮らしに向けて『幸せなプラン』作りを行っている。毎月のカンファレンスにて、職員全員でモニタリングや意見交換を行い、進捗状況や対応の確認、および支援内容が適切であるかを話し合っている。 | 介護支援経過記録やケース記録から、利用者の思いを抽出し、本人が充実した生活を送るための“幸せプラン”は、長期1年、短期3、4ヶ月でケアマネジャーが作成している。毎月、担当職員を中心に、全職員でカンファレンス、モニタリングが行われており、見直しに繋げている。本人・家族の意向を反映し、了承のもと実践している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の様子やケアの内容、職員の気づきをケース記録として残し、スタッフ間で共有している。また、その情報を元に支援の評価やモニタリングを行い介護計画を見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個人的な買い物や外出の同行、医療機関への通院付添等、本人や家族の状況や要望に対して臨機応変に対応している。 | | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(ふるさとの丘)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 毎年、防火避難訓練の際、地元消防団に立ち会ってもらい、助言をもらっている。地元の八百屋やスーパーの利用し、訪問美容を活用している。職員が情報収集して、積極的に市内の催しやイベントへ参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホーム協力医の他、利用前のかかりつけ医など本人や家族の希望に応じて対応し連携を取っている。また、家族の依頼に応じて通院支援を行っている。 | かかりつけ医継続は、本人、家族の選択としているが、現況は、利用者全員が協力医の週1回の往診を受けている。専門科受診は、家族の要望があれば、職員が対応しており、受診結果は双方で連絡し合い共有している。看護職員から協力医へ早めの対応と、24時間医療連携にて適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は日々の関わりの中で、体調や表情、状態の変化に気を配り、なにかあれば看護職に連絡して、指示をもらい、異常の早期発見や早期対応に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、医療機関が求める情報を提供し、職員が見舞いに行き状態を把握したり、家族とも回復状況についての情報交換をしながら、医師や医療連携室と連携取り、速やかな退院支援に結びつけている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時だけではなく、利用者の状態変化に応じて何度も話し合いを繰り返し、毎回事業所のできることや他の選択肢を説明し意思の確認を繰り返している。意向にそって、医師、看護職、介護職が連携を取って取り組んだり、医療や他のサービスに繋げている。 | 契約時、重度化及び看取りに関する指針を基に家族に説明し同意書を得ている。利用者の状況変化時、主治医と話し合いを重ね、終末期の確認書に同意を得て、看取り支援を行っている。代表は、職員のメンタル面にも配慮しながら、本人・家族が望む終末期を迎えられるようチームで取り組んでいる。看取後の反省会で更に意識を高めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は、毎年、AEDの使用法や心肺蘇生法、応急手当の研修を行い実践できるように訓練している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。 | 年2回利用者とともに避難訓練を行い、内1回は消防署ならびに地元消防団に立ち会いをしてもらっている。定期的に防火自主点検(スプリンクラー、書類、備蓄品、トラッキング)や消火器操作法の練習を行っている。オール電化完備。 | 年2回の訓練実施は、消防署、消防団、消防設備会社立会の夜間想定訓練と、消防設備会社立会の夜間および日中想定自主訓練で、初期消火から避難誘導まで訓練実施しており、総評を得ている。備蓄や非常持出を整備し、毎月、トラッキング等点検を行っている。ただし、訓練の実施回数が年2回であるため、更なる訓練実施機会の拡大、自然災害の備え、連絡網の検証はこれからである。 | 訓練後の総評を次の訓練で定着させるため、夜勤職員が参加する訓練の回数増に期待したい。また、近年の自然災害多発を踏まえ、対応策と連絡網の検証が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に理念を意識しながら、利用者には敬意を持って接し、プライバシーに配慮しながら、さりげない言葉かけや対応を心がけている。 | 職員は、利用者には敬語で話すことを基本としている。居室へ入室する際は必ずノックしており、気になる言葉遣いは、代表やリーダーがその都度注意している。失敗した時はさりげなく対応し、他の利用者にわからないよう配慮している。個人情報に関する書類は所定の場所に適切に保管している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の関わりの中で、その利用者に合わせて言葉かけや方法を用いて、本人の思いや希望を聞いたり、自己決定する機会を設けたりしている。意思表示が困難な方は、表情や言動から、意思をくみ取るように努力している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースを大切にし、利用者の状態や希望に合わせて相談をしながら、柔軟な対応をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えの際、服を選んでもらったり、希望の服と一緒に買いに行ったり、誕生日のプレゼントとして送ったりしている。日常、頭髪や食べこぼし、爪など、職員が気がかけてさりげなく支援している。訪問美容ではどのようにしたいかを本人へ確認している。髭を剃ってほしいとの利用者の希望で市内の理髪店に協力を依頼して出向いた。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節の旬の物や、ホーム周囲で採れた山菜を提供し季節を感じてもらったり、外食や野外で食事するなど食事が楽しめるように工夫している。できる方は、毎日、準備や後片付けで活躍してもらっている。また、調理レクリエーションを実施し、それぞれが役割を持ちながら、協力して食事作りを行っている。 | 献立作成担当の職員がおり、事業所の畑で収穫した野菜を使って季節の料理を提供している。月1回の調理レクリエーションは利用者が調理を楽しむ企画となっている。お楽しみプランでは駅弁を選択してもらい提供したり、外食に出掛けている。土用の丑の日の鰻や秋の秋刀魚など旬を楽しめる豊富なメニューは利用者の楽しみとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態や、提供方法、食事用具の工夫をしている。日々の食事摂取量や水分摂取量を記録管理し、少ない場合は嗜好品や栄養補助食品で補うなどの工夫も行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 協力歯科医のアドバイスを受けながら、利用者の状態に応じて口腔ケアの方法を変えて対応している。できる方は言葉かけと見守りを行い、できない方は職員ができない部分のケアを行い、誤嚥性肺炎の予防に努めている。 | | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(ふるさとの丘)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し、尿意のない利用者には時間を見計らって誘導をしたり、利用者の様子から察知したりして、トイレで排泄できるよう支援している。おむつや紙パンツについては、使用の根拠を明確にし、変化があれば見直しをおこなっている。失禁時は、本人の誇りが損なわれないように配慮しながら支援している。 | 日中はトイレでの排泄を支援している。意思表示の困難な利用者は、排泄パターンをチェックし把握することで定期的に声を掛けて誘導している。日々の記録を基に毎月カンファレンスで検討しており、リハビリパンツから布パンツに改善している事例がある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便周期を把握し、麦やヨーグルト、果物を食事に取り入れ、水分摂取量にも気を配っている。また、腸の動きをよくするために、定期的に体操を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 浴槽につかる、シャワーのみ、午前、午後、湯の温度など利用者の希望に添って支援している。また、利用者の羞恥心や恐怖心などの配慮にも務めている。 | 週2、3回の入浴を支援している。入浴拒否の場合は、時間を置いて声を掛けたり、本人の気分に沿って無理強いはいしない。体調不良時は居室にて清拭と更衣を行っている。足浴もある他、父の日に近隣の温泉に出掛け、同性の職員が入浴を支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を促し、夜間ゆっくり休めるように、生活リズムを整える支援をしている。日中でも利用者の希望や体調、表情を考慮して、居室で休息してもらっている。眠りが浅い方は、無理に休んでもらったり眠剤など服用したりせず、活動時は見守りを行い、好きなときに休んでもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方薬は介護記録システムを使って職員が情報共有するとともに、服薬時は二重チェックをして誤薬がないようにしている。日頃から、利用者の状態変化があれば医療機関に報告しているが、薬の処方や用量に変更があった場合は、特に利用者の状態変化の観察に努め医療機関へ情報提供している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者それぞれの得意なことで、経験や知識を発揮してもらえるように支援し、職員は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。また、外出や嗜好品を通して気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの希望に応じたり、職員から提案したりして、外食、買い物、様々な催し物、ピクニック、墓参りなど積極的に外出している。重度化している方も福祉車両を利用し五感刺激の機会を設けている。家族の協力を得て自宅へ外出や外泊することもある。 | 気候のいい時期は散歩やバルコニーでのお茶など気分転換を図っている。また、事業所は大型の福祉車両を活用して車椅子の利用者も一緒に外出している。外出先のトイレは事前に把握しており、ポータブルトイレを乗せて出掛けることもある。また、個別支援として出掛けることも多い。 | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(ふるさとの丘)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の希望により、家族の理解を得てお金を所持してもらっている。所持していない人も買い物の際は、自分で払ってもらえるようにお金を手渡すようにしている。また、毎年事業所内でフリーマーケットを開催し、金券を使って買い物をしてもらうことで社会性の維持につなげている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 毎年、年賀状、暑中見舞いを出すための支援を続けているとともに、海外にいる家族への手紙の支援も行っている。字があまり書けなくても、名前や一言でもよいので直筆で書いてもらうようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的な雰囲気を大切に、居心地の良い快適な空間作りに努めている。周囲は自然に恵まれ、窓からは四季の移ろいを感じることができる。 温湿度計を設置して快適に過ごしてもらえるよう管理している。 | 利用者が、テラスでサンマを焼くこともあり、そこからの自然の眺めや、プランターの花で季節を感じている。また、リビングにて調理の下拵えや寛ぐ様子は、家庭的な雰囲気である。日差しは、カーテンで遮り、集中暖房機は心地よい暖かさがある。職員による空調管理、清掃で、臭気もなく、清潔で快適な共用空間となるよう工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ダイニングテーブルやリビングソファの配置を工夫したり、日当たりのよい和室など、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースの確保に努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には利用者が使い慣れた物が写真等、自由に持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地よい居室作りに努めている。持ち込みが少ない方は、職員が本人と相談したり家族に協力をいただきながら好みの居室作りを支援している。 | 居室は、テレビ、衣装ケース、布団、家具など、利用者が混乱しないよう使い慣れた物を使いやすく配置している。誕生日色紙や写真など思い出のある物を掲示している。天気の良い日の布団干しやシーツ交換、職員による清掃や温度、湿度管理で居心地よく過ごせるよう整えている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室入り口には顔写真と名前を掲示したり、トイレや浴室にはわかりやすく案内表示をしている。また、利用者の状況に合わせて職員で話し合い、本人の不安や混乱、失敗を招くことがないように環境整備に努めている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 4271300297 | | |
| 法人名 | 株式会社 ふるさと | | |
| 事業所名 | グループホームふるさとの丘・山鳩の里 (山鳩の里) | | |
| 所在地 | 長崎県諫早市中通町993番地7 | | |
| 自己評価作成日 | 令和元年11月01日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/42/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内 |
| 訪問調査日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、当社の理念である「利用者の意思を尊重し、望ましい生活を送れるように、チーム一丸となって支援します」、「目配り、気配り、心配りに努め、利用者の心に寄り添います」「利用者には誇りと責任を持ち、真心で接します」のもと、利用者がその望む生活を送れるように、心に寄り添いながら、多角的な視点とクリエイティブなマインドを持って自立支援に努めている。生活のメリハリと楽しみのために、毎月イベントやレクリエーションを行っている。また、気分転換や五感刺激、社会との関わり合いが薄れることのないように、身体的な要因に関係なく、積極的に外出支援を行い喜ばれている。施設代表の『働く職員が、笑顔で楽しく働けない職場では、利用者様に対しての安心・安楽なサービスを提供することができない』という考えのもと、事業所が笑顔であふれるように、職場環境・職員処遇の改善を積極的に進めるとともに、社内教育や外部研修会へ参加、資格取得の支援など、職員の育成にも力を注いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念の見直しを行い、職員全員で新たな理念を作り上げた。毎月の全体ミーティングで確認や共有を行い、理念を日々のケアや支援の羅針盤として、スタッフそれぞれが利用者が望む生活について考え、実践をしている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入会し、町内の一員として清掃や祭りなどの行事に積極的に参加して、町内の方と交流している。「山鳩さん」と呼ばれ頼りにされている。昨年は、有喜の夏祭りで披露された『猿浮流』にも参加し、ご厚意でホームにて庭先回りに来ていただき交流し | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や「語らんば」等の地域の集いの場や、施設見学の方などから質問や相談を受けアドバイスをしている。また、職員は認知症キャラバンメイトとして活動し、児童や市民に認知症理解や支援方法を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業所の考えや実際の活動、評価結果等を写真を用いてわかりやすく説明するとともに、話しやすい雰囲気づくりに努め、意見をもらっている。また、今年度より、職員に1名参加してもらい、利用者やユニットのこと、介護への思いや考えを発表してもらい事業所の様子を伝えている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当課とは、運営推進会議への参加、各手続きや調査、公的扶助受給者への支援を通して、連携している。また、市担当課主催の研修会には必ず参加してしている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を中心に年2回の社内研修を行うとともに、センサー使用についても毎月のユニットカンファレンスで見直しを行っている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 社内、社外研修での学びとともに、日々の業務の中で互い注意喚起するなど、意識付けながら防止に努めている。 | | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(山鳩の里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修への参加や介護関連の資格取得のための学習にて学んでいる。利用者の状況に応じ社会福祉協議会や地域包括支援センターに相談をしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は、契約書や重要事項説明書を詳しく説明し、質問に答えながら十分納得いただいた上で契約していただいている。また、改定の際は事前に文章にて通知した上で、疑問質問を受付け、納得いただいた証として同意書をもらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置はもとより、利用者とは、日々のコミュニケーションの中で意見や要望を伺っている。ご家族とは、面会時や電話報告を通して信頼関係の構築および意見を言える雰囲気作りに努めて意見や要望を伺っている。その上で希望に添えるように努めて | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の全体ミーティング、日々の業務中、年2回の職業能力評価の個人面談等幅広く、意見や提案をしてもらう機会を設け、運営に反映している。また、食事会を設けたりと、話しやすい雰囲気作りに努力している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は、職員とともに日々介護に携わり、一緒に悩み考えながら認知症ケアに取り組み、スタッフ個々の把握に努めるとともに、給与水準の見直しや業務改善に取り組んでいる。また、やりがいや向上心につながるよう、職業能力評価制度、キャリアドッグを実 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月の社内研修の実施および社外研修の案内と受講の機会の支援はもとより、管理者は日々の業務や職業能力評価制度にて職員個々の力を把握し、必要に応じてOJTを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 『諫早市グループホーム連絡協議会の研修』、『みんなDE踊ると隊』、『語らんば』、『その他社外研修』を通じて意見交換をしたり、親睦を深めたりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面談にて、本人や家族、関係者から情報収集して、困りごとと不安なことの把握に努めている。入居後は、良好な関係づくりのため、本人に負担のかからない範囲で積極的に関わり、話を聞くようにしてケース記録に残し職員で共有している。必要に応じて | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面談にて、家族、関係者から情報収集して、これまでの苦労や困りごとと不安なことの把握に努めている。入居後は、家族の心配への配慮と今後の良好な関係づくりのため、入居1週間は、その日の状況を家族に電話で伝えるとともに要望を伺って | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の相談で、本人や家族、関係者から情報収集し、支援の優先順位を見極め、必要であれば他のサービスを紹介することもある。また、希望に応じて体験入居をしてもらっている。さらに、入居後も身体や精神の状態を詳しく観察して柔軟な対応をするが、早急な対応が必要と思われる場合は、他のサービスへつなげている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の思いやストレスを意識しながら利用者の望む暮らしを考え支援している。また、職員はユニットを大きな家と考え、自分もそこに住む住人であるとの認識を持ち、利用者に助言やいたわり、励ましをもらいながら喜怒哀楽を共有し、関係性を構築してい | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員と家族の良好な関係構築に努めている。家族の面会の際には、日々の様子を伝えて情報共有している。また、利用者と家族の関係性に配慮しながら、暑中見舞・年賀状のやりとりや、家族と外出・食事などを提案し協力を得ている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | なじみの美容院の利用、墓参り、地域の行事や祭りへの参加、なじみの場所へのドライブなど一人ひとりの生活習慣を尊重し積極的に支援している。積極的に支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員は利用者同士の関係性について情報共有し、利用者同士の関係性がうまくいくように間に入って状況に応じた支援をしている。役割やレクリエーションを通して互いに支え合う関係性作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後、病院への見舞いや施設への面会などを行っている。他の事業所へ移った際にも、ホームでの暮らしぶりや支援内容、注意点を情報提供するとともに、提供後の問い合わせにも対応し連携に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々職員は、利用者の言動、表情から本人の思いの推測や確認を行い、その真意をはかることに努めている。把握が困難な場合は、家族や関係者に相談しながら、本人の視点に立って検討している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴やライフスタイルの把握は、利用者への理解、その人あった支援の実践、BPSDの対応などに欠かせないことであるため、本人や家族に協力を得て継続的に行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の関わりや観察から、利用者それぞれの生活リズムの把握に努め、職員で情報共有して、柔軟に対応している。またその人の「ストレングス」に着目し、支援課題として取り組んでいる。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者との日々の関わりや家族とのコミュニケーションを通して思いや希望を聞き、本人の望む暮らしに向けて『幸せなプラン』作りを行っている。毎月のカンファレンスにて、職員でモニタリングや意見交換を行い、進捗状況や対応の確認、および支援内容が適切であるかを話し合っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の様子やケアの内容、職員の気づきをケース記録として残し、スタッフ間で共有している。また、その情報を元に支援の評価やモニタリングを行い介護計画を見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個人的な買い物や外出の同行、医療機関への通院付添等、本人や家族の状況や要望に対して臨機応変に対応している。 | | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(山鳩の里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 毎年、防火避難訓練の際、地元消防団に立ち会ってもらい、助言をもらっている。地元の八百屋やスーパーの利用し、訪問美容を活用している。職員が情報収集して、積極的に市内の催しやイベントへ参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホーム協力医の他、利用前のかかりつけ医など本人や家族の希望に応じて対応し連携を取っている。また、家族の依頼に応じて通院支援を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は日々の関わりの中で、体調や表情、状態の変化に気を配り、なにかあれば看護職に連絡して、指示をもらい、異常の早期発見や早期対応に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、医療機関が求める情報を提供し職員が見舞いに行き状態を把握をしたり、家族とも回復状況についての情報交換をしながら、医師や医療連携室と連携取り、速やかな退院支援に結びつけている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時だけではなく、利用者の状態変化に応じて何度も話し合いを繰り返し、毎回事業所のできることや他の選択肢を説明し意思の確認を繰り返している。意向にそって、医師、看護職、介護職が連携を取って取り組んだり、医療や他のサービスに繋げている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は、毎年、AEDの使用方法や心肺蘇生法、応急手当の研修を行い実践できるように訓練している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。 | 年2回利用者とともに避難訓練を行い、内1回は消防署ならびに地元消防団に立ち会いをしてもらっている。定期的に防火自主点検(スプリンクラー、書類、備蓄品、トラッキング)や消火器操法の練習を行っている。オール電化完備。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に理念を意識しながら、利用者には敬意を持って接し、プライバシーに配慮しながら、さりげない言葉かけや対応を心がけている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の関わりの中で、その利用者に合わせた言葉かけや方法を用いて、本人の思いや希望を聞いたり、自己決定する機会を設けたりしている。意思表示が困難な方は、表情や言動から、意思をくみ取るように努力している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースを大切にし、利用者の状態や希望に合わせて相談をしながら、柔軟な対応をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えの際、服を選んでもらったり、希望の服と一緒に買いに行ったり、誕生日のプレゼントとして送ったりしている。日常、頭髪や食べこぼし、爪など、職員が気がかけてさりげなく支援している。訪問美容ではカット・カラーを含めどのようにしたいかを本人へ確認している。パーマをかけるため馴染みの美容室に出向いた。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節の旬の物や、ホーム周囲で採れた山菜を提供し季節を感じてもらったり、外食や野外で食事するなど食事が楽しめるように工夫している。できる方は、毎日、準備や後片付けで活躍してもらっている。また、定期的に調理レクリエーションを実施し、それぞれが役割を持ちながら、協力して食事作りを行っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態や、提供方法、食事用具の工夫をしている。日々の食事摂取量や水分摂取量を記録管理し、少ない場合は嗜好品や栄養補助食品で補うなどの工夫も行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 協力歯科医のアドバイスを受けながら、利用者の状態に応じて口腔ケアの方法を変えて対応している。できる方は言葉かけと見守りをし、できない方は職員ができない部分のケアを行い、誤嚥性肺炎の予防に努めている。 | | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(山鳩の里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し、尿意のない利用者には時間を見計らって誘導をしたり、利用者の様子から察知したりして、トイレで排泄できるよう支援している。おむつや紙パンツについては、使用の根拠を明確にし、変化があれば見直しをおこなっている。失禁時は、本人の誇りが損なわれないように配慮しながら支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便周期を把握し、麦やヨーグルト、果物を食事に取り入れ、水分摂取量にも気を配っている。また、腸の動きをよくするために、定期的に体操を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 浴槽につかる、シャワーのみ、午前、午後、湯の温度、入浴剤など利用者の希望に添って支援している。また、利用者の羞恥心や恐怖心などの配慮にも務めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を促し、夜間ゆっくり休めるように、生活リズムを整える支援をしている。日中でも利用者の希望や体調、表情を考慮して、居室で休息してもらっている。眠りが浅い方は、無理に休んでもらったり眠剤など服用したりせず、活動時は見守りを行い、好き | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方薬は介護記録システムを使って職員が情報共有するとともに、服薬時は二重チェックをして誤薬がないようにしている。日頃から、利用者の状態変化があれば医療機関に報告しているが、薬の処方や用量に変更があった場合は、特に利用者の状態変化の観察に努め医療機関へ情報提供している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者それぞれの得意なことで、経験や知識を発揮してもらえるように支援し、職員は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。また、外出や嗜好品を通して気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの希望に応じたり、職員から提案したりして、外食、買い物、様々な催し物、ピクニック、墓参りなど積極的に外出している。重度化している方も福祉車両を利用し五感刺激の機会を設けている。家族の協力を得て自宅へ外出や外泊することもある。 | | |

グループホームふるさとの丘・山鳩の里(山鳩の里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の希望により、家族の理解を得てお金を所持してもらっている。所持していない人も買い物の際は、自分で払ってもらえるようにお金を手渡すようにしている。また、毎年事業所内でフリーマーケットを開催し、金券を使って買い物をしてもらうことで社会性の維持につなげている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の希望に応じて、プライバシーに配慮したり、必要に応じて間に入って用件を伝えたりしながら家族と電話で話してもらっている。毎年、年賀状、暑中見舞いを出すための支援を続けるとともに、家族や友人への手紙の支援も行っている。字があまり書けなくても、名前や一言でもよいので直筆で書いてもらうようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的な雰囲気大切に、居心地の良い快適な空間作りに努めている。周囲は自然に恵まれ、窓からは四季の移ろいを感じることができる。 温湿度計を設置して快適に過ごしてもらえるよう管理している | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | スペースに制約があるが、ダイニングテーブルやリビングソファの配置を工夫して一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースの確保に努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には利用者が使い慣れた物が写真等、自由に持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地よい居室作りに努めている。持ち込みが少ない方は、スタッフが本人と相談したり家族に協力をいただきながら好みの居室作りを支援している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室入り口には顔写真と名前を掲示したり、トイレや浴室にはわかりやすく案内表示をしている。また、利用者の状況に合わせてスタッフで話し合い、本人の不安や混乱、失敗を招くことがないように環境整備に努めている。 | | |